

町の財政状況

昭和四十九年度の一般会計及び特別会計は五月三十一日をもって出納を閉鎖し、決算の調整を行き去る十二月十七日の定例町議会で認定されました。

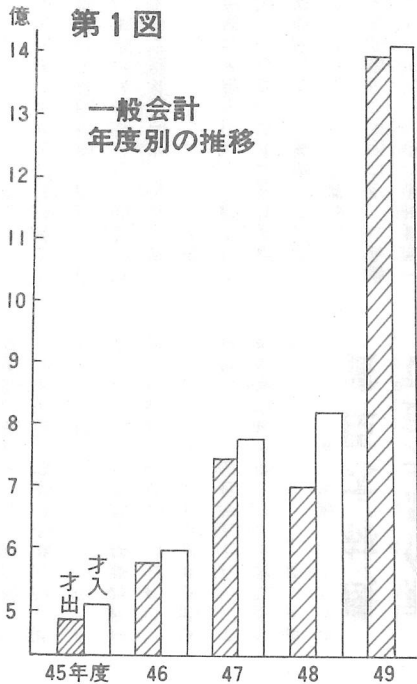
以下その概要は次のとおりです。なお、今回は紙面の都合上、内容を簡約して述べてありますので、不十分な点もあると思われませんが、希望の方はいつでも役場でその内容を見ることが出来ます。

一般会計

歳入決算高 1,413.351千円
歳出決算高 1,394.422千円
差引残高 18.929千円

積極的な事業投資 建設事業に六億八千万円

前年度後半の石油危機による諸物価の高騰と年度後半からの景気の後退といった経済変動の激しい中にある昭和四十九年度は当初予算十一億四千五百二十万円で、その後六回の修正によって最終予算は十四億九千七百九十八万九千円(事故繰越七千六百六十七千円



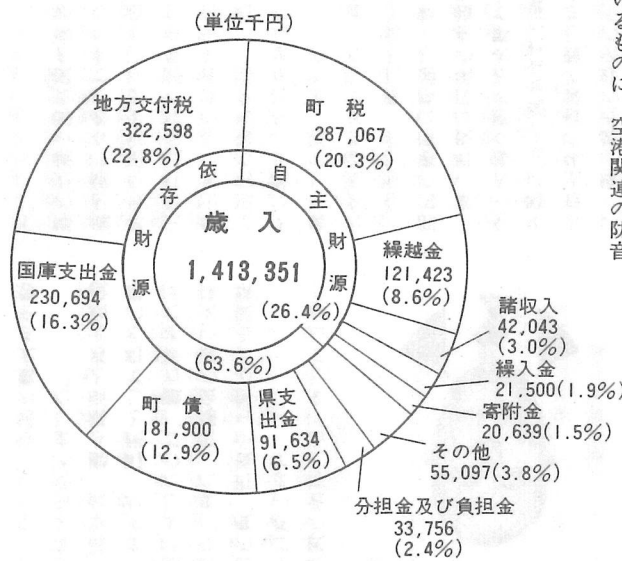
繰越明許費一億七百二十七万四千円(心)となりました。これに対し、収支決算の規模は歳入総額で十四億一千三百三十五万一千円で前年度より七十・八%増、歳出総額は十三億九千四百四十二万二千円で前年度より九十七・五%増、差引一千八百九十二万九千円(そのうち三十九万四千円は上堺共同利用施設建設事業に伴う繰越分)で実質収支一千八百五十三万五千円の赤字決算となり健全財政を維持いたしました。

歳入

歳入決算額は、総額十四億一千三百三十五万一千円で、その主なものは地方交付税の三億二千二百五十九万八千円(二二・八%)をはじめとして、町税二億八千七百六十七千円(二〇・三%)、国庫支出金二億三千六十九万四千円(一六・三%)、町債一億八千九十万

円(二二・九%)、繰越金一億二千四百二十二万三千円(八・六%)、県支出金九千六百六十三万四千円(六・五%)となっております。(第2図参照)前年に比べ著しく増加しているものに、空港関連の防音

第2図



第4図

